

記事

阿竹 徹 会員のクリステンセン記念賞受賞を祝して

日本熱測定学会の会員である東京工業大学応用セラミックス研究所の阿竹 徹 教授が、本年8月にフロリダで開催された第54回カロリメトリー会議でクリステンセン記念賞 (The Christensen Memorial Award) を受賞され、“Thermodynamic Studies of Materials by Adiabatic Calorimetry and Heat Capacity Spectroscopy” の演題で受賞講演された。会員の一人として、また若き日を同じ研究室で過ごした先輩として、心よりお慶びを申し上げたい。

その賞はソルトレイクシティに生れ、ブリガムヤング大学で長年勤められた化学工学者 James J. Christensen 教授 (1931 ~ 1987) の化学熱力学に関する業績を記念して、同大学の熱力学センターがスポンサーとなって1988年に設けられたものである。カロリメトリー会議の賞の中で、クリステンセン記念賞は独創的な熱量計の開発 (Innovations in Calorimetry)、とその利用に重きを置いて選考されるものであり、長年の貢献に対して授与されるハフマン記念賞 (The Huffman Memorial Award) や、40歳以下の若手研究者に贈られるスンナー記念賞 (The Sunner Memorial Award) とは趣を異にしている。受賞者がいなかった年もあり、阿竹教授は10人目のしかも日本人初の受賞者という栄誉に輝いたことになる。阿竹教授はカロリメトリー会議の Board of Directors も勤められ、また熱容量分光法や材料熱力学のような新しいシンポジウムのお世話を毎年されており、学会運営でも活躍なさっておられる。

阿竹教授の「材料物性熱力学の確立と新機能材料の構造-物性相関の研究」に対して、日本化学会は昨年3月に第15回学術賞を授与している。材料の研究には様々な手法が用いられているが、熱力学的研究の重要性を常々主張し実証されてきたことが、今回の受賞につながり、奇しくも時を同じくして国の内外で評価されたことになる。今回の阿竹教授のクリステンセン記念賞は、1992年の菅 宏 大阪大学教授 (現近畿大学教授) のハフマン記念賞に続く日本



人受賞である。日本熱測定学会の会員諸姉の研究には、世界に抜きん出たものが沢山あり、学会としての潜在力も他国を十分に凌駕しているが、世界の評価は必ずしも日本の実力を反映したものにはなっていない。今回の阿竹教授の受賞が契機となり、今後世界の正当な評価を受ける本学会員が続出することを願いたいものである。阿竹教授には世界を視野に入れた益々のご活躍を願って、祝詞としたい。

(大阪大学 大学院理学研究科 徂徠道夫)